

# 広島県経済の動向

令和8年2月16日

商工労働局

## 目 次

1	経済動向の概要	1
	（1）国内経済の動向	
	（2）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（1）鉄鋼	
	（2）自動車	
	（3）造船	
	（4）一般機械	
	（5）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（1）概況	
	（2）景況感・景況感の変化	
	（3）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（1）概況	
	（2）業種別	
	（3）原因別	
	（4）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（1）県内の有効求人・求職の動向	
	（2）県内の新規求人・求職の動向	
	（3）県内の人員整理の状況	
	（4）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

## 1 経済動向の概要

### (1) 国内経済の動向

#### ア 概要

指 標	令和7年		令和8年
	11月	12月	1月
基調判断	景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している		
輸 出	おおむね横ばいとなっている		
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	緩やかに持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる		
住宅建設	弱含んでいる		
消費者物価	上昇している		
企業収益	米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられる中で、改善に足踏みがみられる		

#### イ 先行き

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待される。ただし、今後の物価動向や米国の通商政策をめぐる動向などの景気を下押しするリスクに留意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年1月22日公表）】

## (2) 広島県経済の動向

### ア 概要

指 標	令和7年		令和8年
	10月	11月	1月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	弱めの動きとなっている	持ち直しの動きがみられている	
生 産	横ばい圏内の動きとなっている		緩やかに持ち直している
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	減少している		下げ止まっている
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	前年を上回っている		

### イ 県内の経済の先行き

先行きについては、海外経済や物価の動向が、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和8年2月6日公表)】

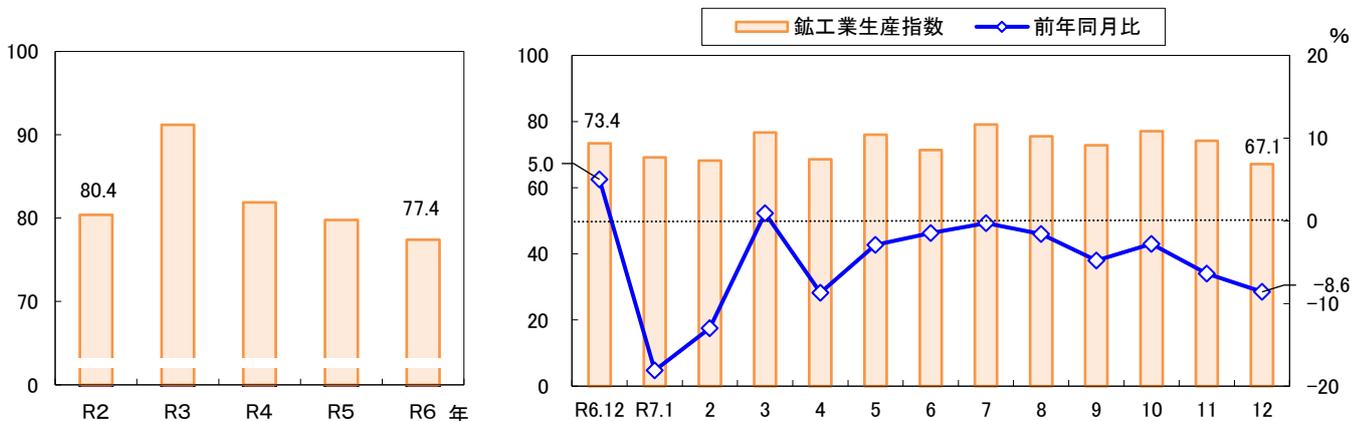
## 2 県内主要製造業の生産動向

### (1) 鉄鋼 (令和7年12月)

12月の鉱工業生産指数(鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年=100)は67.1で、前年同月比で8.6%減少となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

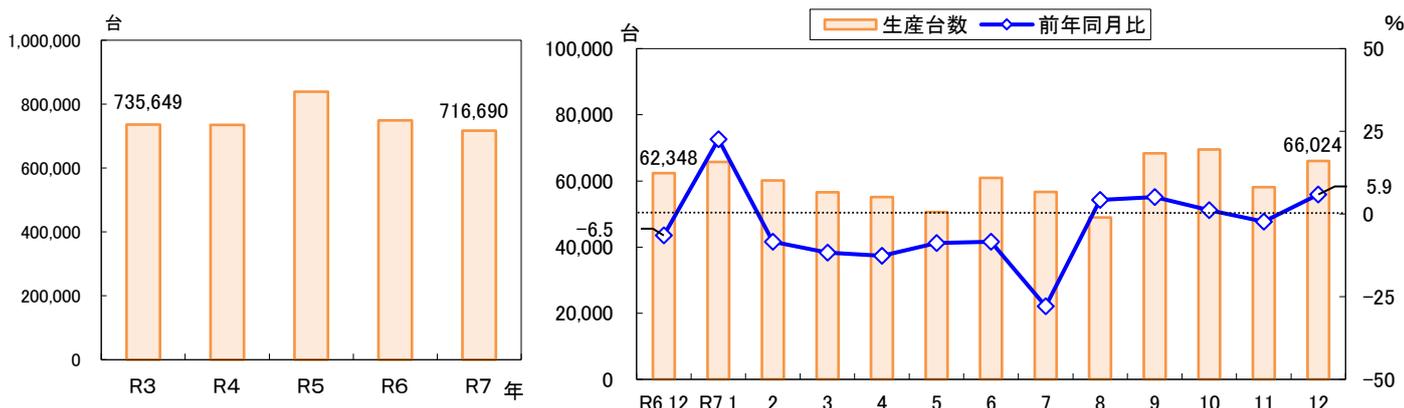


### (2) 自動車 (令和7年12月)

12月の国内生産台数は66,024台で、前年同月比で5.9%増加となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

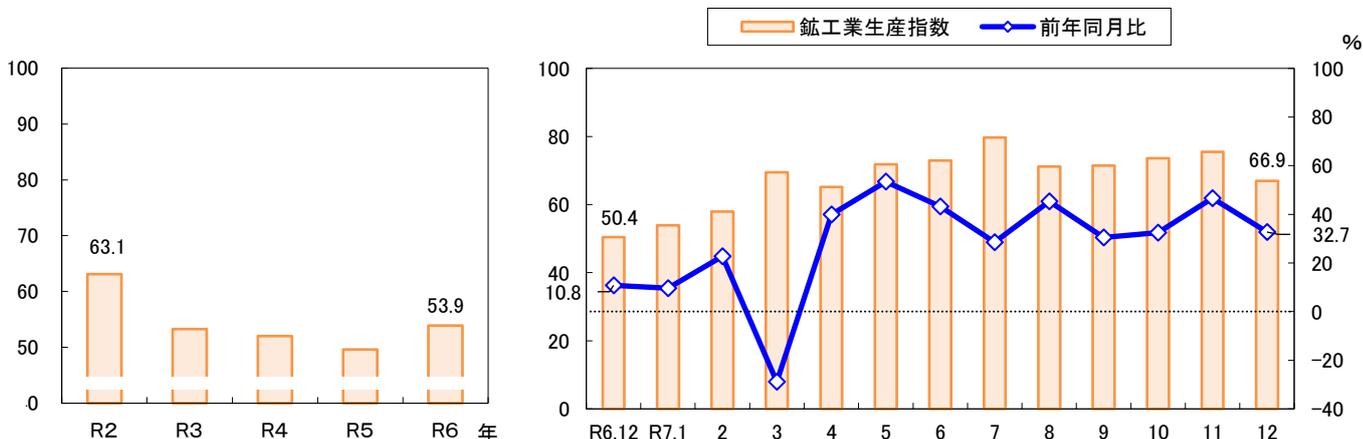


### (3) 造船 (令和7年12月)

12月の鉱工業生産指数(造船部門、原指数、速報値、平成27年=100)は66.9で、前年同月比で32.7%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

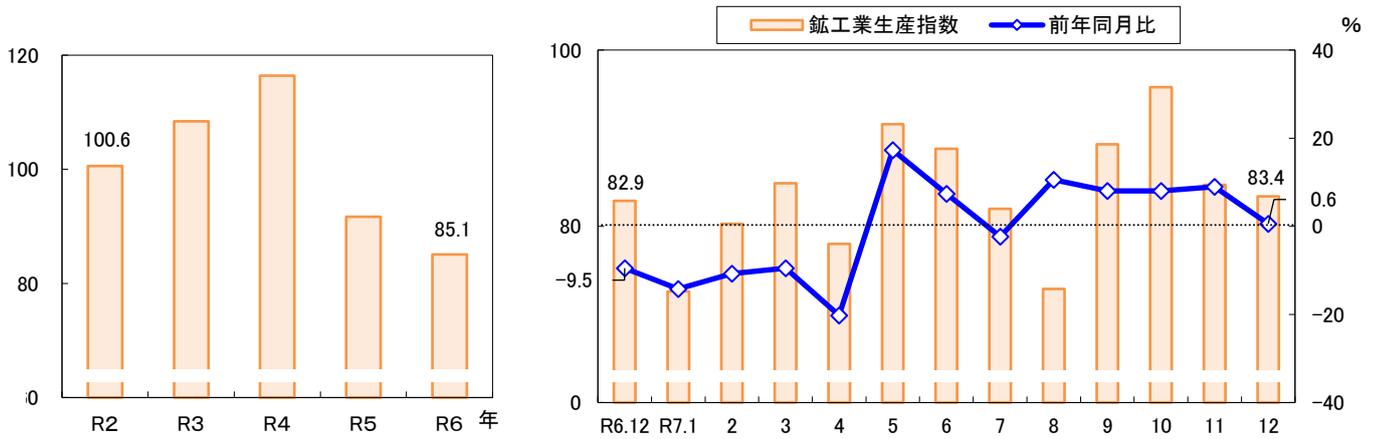


(4) 一般機械 (令和7年12月)

12月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は83.4で、前年同月比で0.6%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

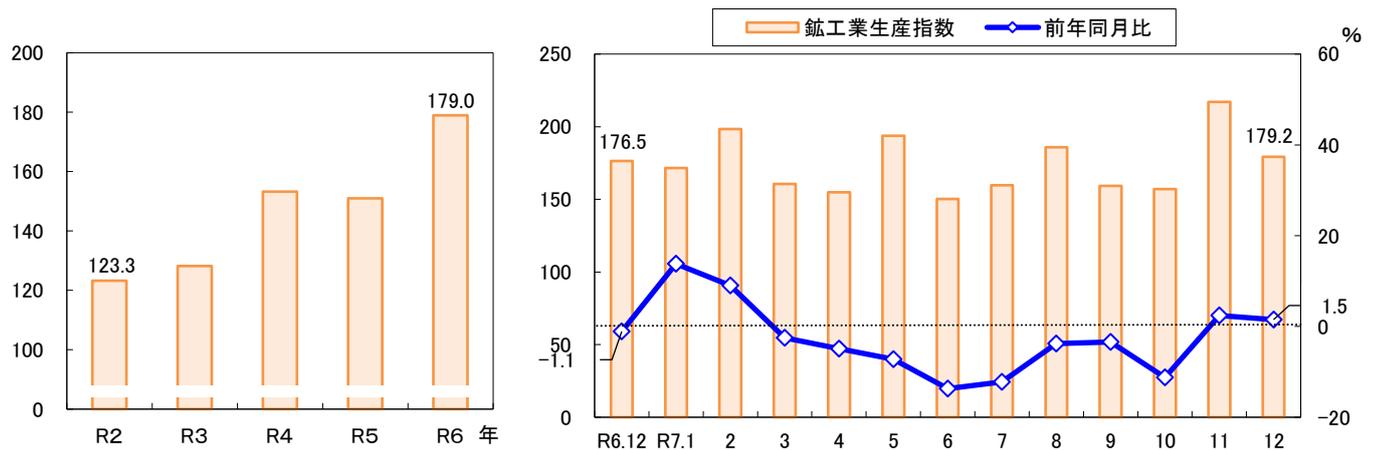


(5) 電気機械 (令和7年12月)

12月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は179.2で、前年同月比で1.5%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



### 3 中小企業の動向（令和7年12月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年1月16日時点）】

#### （1）概況

県内の多くの中小企業は、原材料費や光熱費、人件費の高騰により収益が圧迫されているほか、人材の確保も依然として困難な状況が続いている。さらに、金利上昇による利息負担の増加や資金繰りへの不安も高まっており、今後の景況の見通しは不透明である。

自動車関連業種では、12月の国内自動車販売台数は前年同月比+1.7%と6か月ぶりに増加。マツダ車は前年同月比+0.1%となった。

また、木材業界では、12月の全国新設住宅着工戸数は62,118戸で前年同月比▲1.3%。県内の12月の着工戸数は1,623戸で、前年同月比+2.1%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「12月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の12月分のデータに基づく

#### （2）景況感・景況感の変化

業種	11月の景況感	12月の景況感
食料品	やや悪い	普通
繊維・衣服	普通	やや好況
木材	普通	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	普通
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（铸件）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	普通

業種	11月の景況感	12月の景況感
一般機械器具	やや悪い	やや悪い
電気機械器具	普通	悪い
自動車部品	普通	普通
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	普通	普通
内航海運	普通	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	普通
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	11月	12月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	0	1	1
普通	9	8	▲1
やや悪い	10	9	▲1
悪い	1	2	1

(3) 前月(11月)から変化のあった主な業種

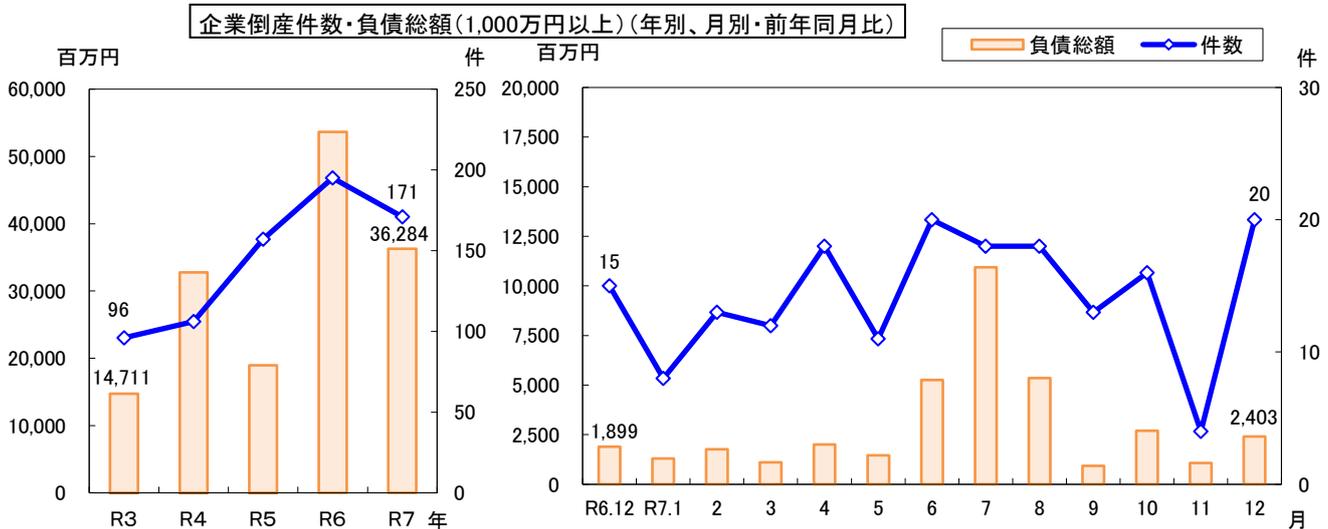
業種	11月の景況感	12月の景況感	変化の理由・状況
小売	やや悪い	普通	<p>暖冬で一度降雪はあったものの比較的天候が良く、組合全体の売上は前年同月比104%、来店客数は前年同月比105%と好調であった。物価高の影響か高級品を扱う業種の売り上げが若干下がっているが、生活必需品の売上は伸び続けている。飲食・サービス業の売上は前年同月比101%で伸び率は低い、ほとんどの店舗が前年を上回っており、各企業の取り組みが実を結んだ。</p> <p>【協同組合三次ショッピングセンター】</p>

## 4 企業倒産状況（令和7年12月）

### （1）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が20件、総額24億300万円であった。  
前月比では、件数が16件、負債総額が13億2,900万円増加した。  
前年同月比でも、件数が5件、負債総額が5億400万円増加した。  
大型倒産（負債総額10億円以上）は0件であった。

区 分	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月
件 数 (前年同月比)	16件 (23.1%増)	4件 (66.7%減)	20件 (33.3%増)
負債総額 (前年同月比)	2,694百万円 (123.9%増)	1,074百万円 (56.8%増)	2,403百万円 (26.5%増)



### （2）業種別

件数は、卸・小売・飲食業が9件、建設業が6件、製造業が2件、運輸・通信、サービス業、その他が各1件となった。

負債総額は、卸・小売・飲食業、建設業、サービス業、製造業、その他、運輸・通信の順となった。

### （3）原因別

原因別では、販売不振が19件、既往のシワ寄せが1件であった。

### （4）今後の見通し

令和7年12月度の倒産件数は20件で、令和5年ぶりの20件超えとなった。負債総額は24億300万円で、5年連続で10億円を上回った。前年同月比では倒産件数、負債総額ともに増加する結果となった。業歴別倒産状況では30年以上が4件となり、業歴10年以上の倒産が全体の60.0%を占め、前月11月度では業歴10年以上の倒産が全体の75.0%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が19件で最多となり、既往のシワ寄せは1件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は20件で全体の100%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は12月度20件中6件発生し、これまでの累計は317件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となっている。

倒産の内訳として、広島県内では建設業の倒産が増加傾向にあるなか、12月度についても建設業が最多となった。働き方改革に加え、原材料や労務費の高騰が消費、設備投資の抑制となり、資金繰りが多忙となる企業が力尽きた可能性がある。

コスト高を背景に、価格転嫁が広がり消費者物価や企業間物価は上昇している。価格転嫁を進め、製品やサービスの売れ行きを前年と同じだけ確保した場合、増収となるものの、同様にコストも増えるため実質的な利益の確保には至っていない。今後は増収といった数字を見るのではなく、実質的な受注、販売量の動向を注視する必要がある。

また、少子高齢化による人手不足は否めず影響は従業員だけではなく、事業承継等の後継者も内包され、12月度としてはその他（偶発的要因）として代表者体調不良による倒産の発生が無かったものの、10月、11月はそれぞれ発生するなど高齢化による影響は避けられない状況ともいえる。

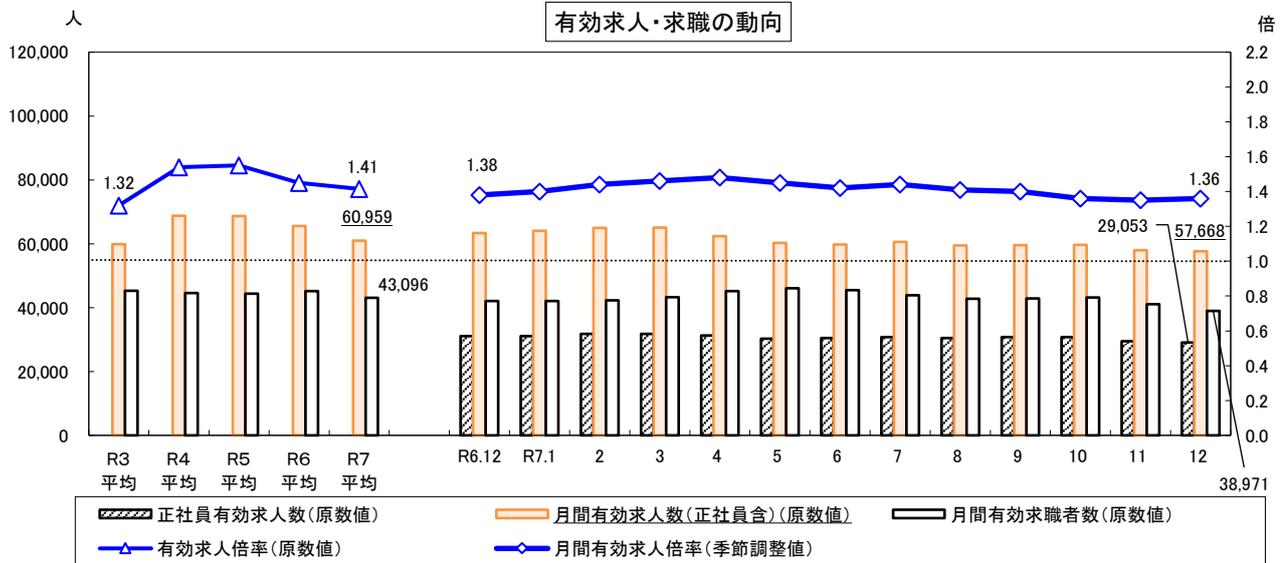
令和8年の干支は「午」であり、飛躍の年とも言われるが、受注、販売量の確保についてはより大きいマーケットへの参入や競争力の強化が急務と言える。

## 5 最近の雇用失業情勢（令和7年12月）

### （1）県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月
有効求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	1.36倍 （▲0.04ポイント）	1.35倍 （▲0.01ポイント）	1.36倍 （+0.01ポイント）
正社員有効求人倍率 （前年同月比）	1.21倍 （▲0.01ポイント）	1.23倍 （▲0.03ポイント）	1.28倍 （▲0.02ポイント）

【広島労働局】



（注1）正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

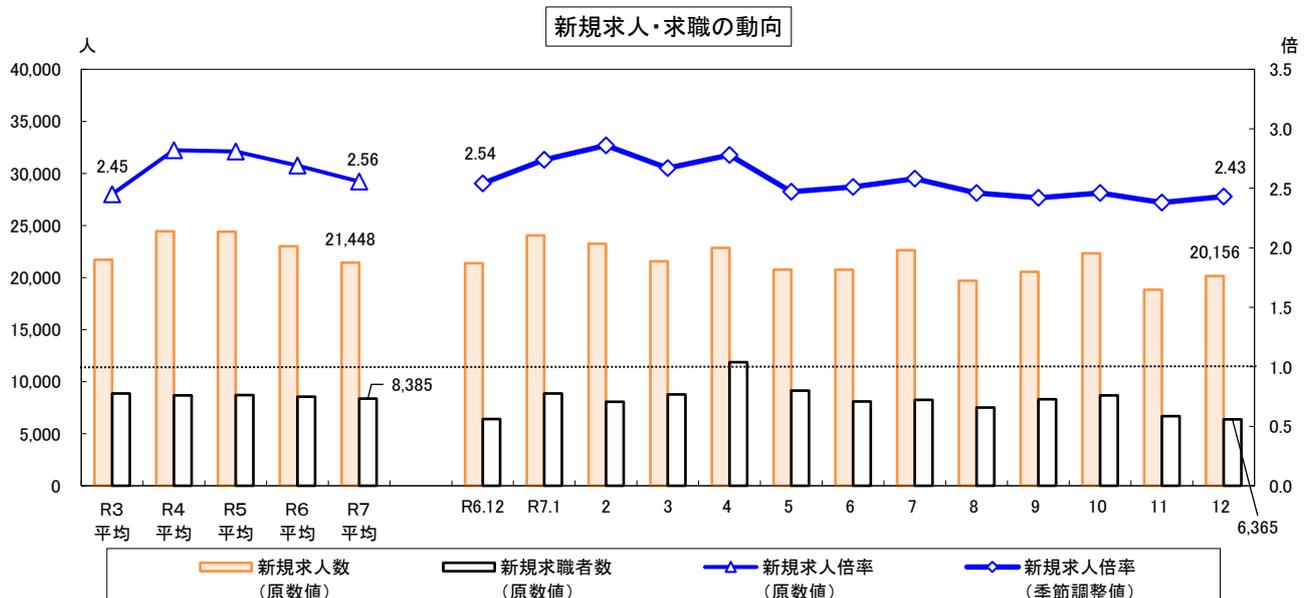
（注2）正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

（注3）季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

### （2）県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月
新規求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	2.46倍 （+0.04ポイント）	2.38倍 （▲0.08ポイント）	2.43倍 （+0.05ポイント）

【広島労働局】

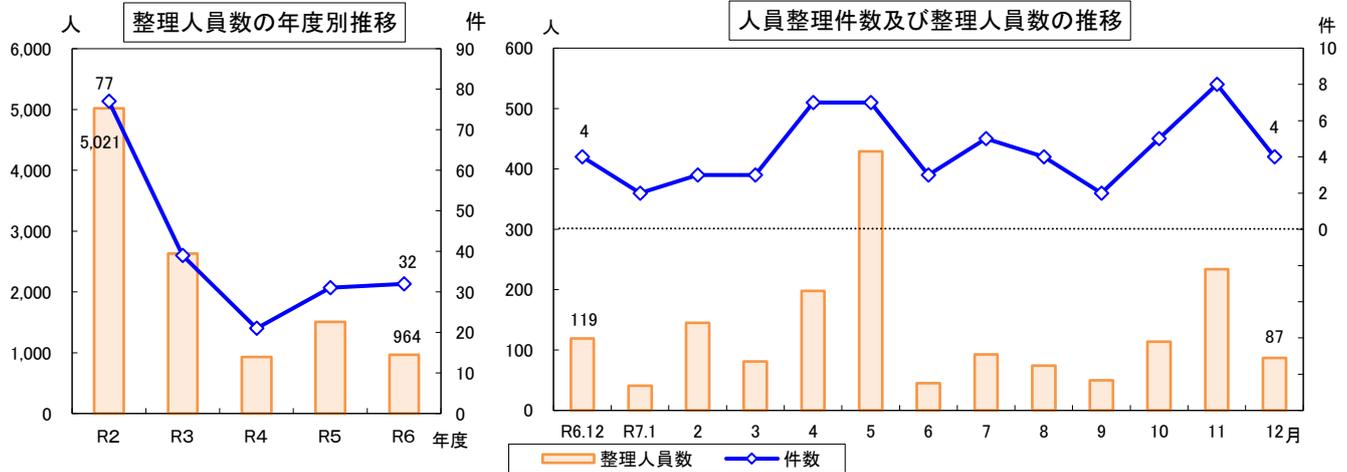


（注）季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月
件数 (前年同月比)	5件 (+2件)	8件 (+7件)	4件 (±0件)
整理人員 (前年同月比)	114人 (+27人)	234人 (+224人)	87人 (▲32人)

【広島労働局】

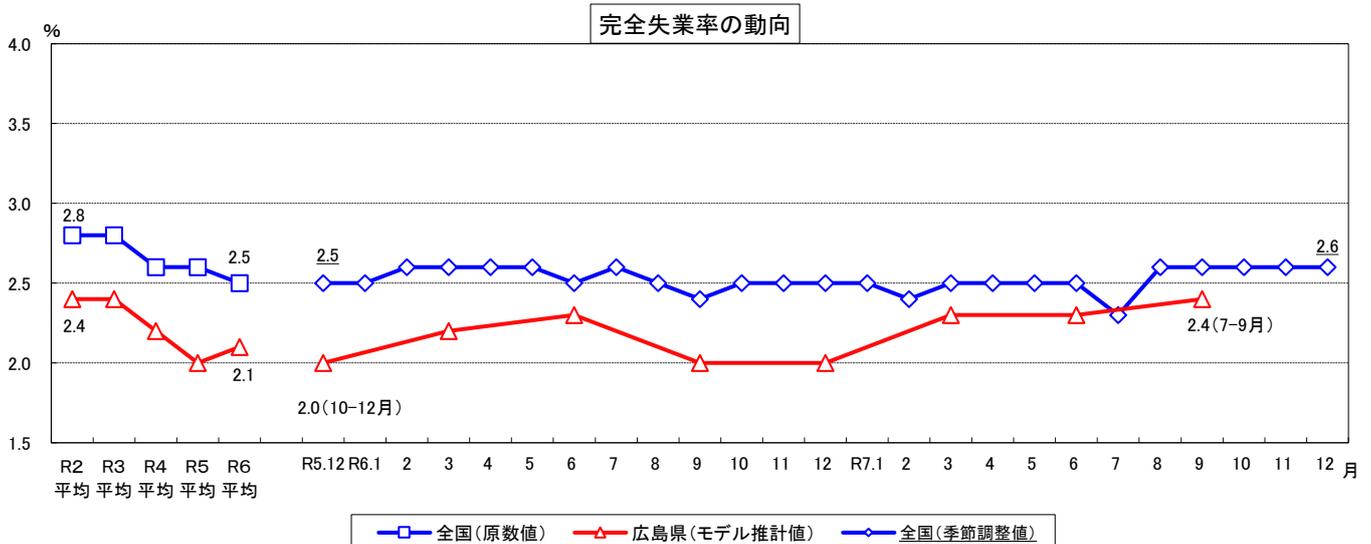


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月
全国完全失業者数 (前年同月比)	183万人 (+13万人)	171万人 (+7万人)	166万人 (+12万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.6% (±0.0ポイント)	2.6% (±0.0ポイント)	2.6% (±0.0ポイント)

区 分	令和7年		
	1～3月平均	4～6月平均	7～9月平均
広島県完全失業率 〈モデル推計値〉 (前年同期比)	2.3% (+0.1ポイント)	2.3% (±0.0ポイント)	2.4% (+0.4ポイント)

【総務省統計局】



- ※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。
- ※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。